



佐久地区賛助会報

あさあ

第58号 [春号]

2021年3月15日

(公財)長野県長寿社会開発センター佐久地区賛助会
電話0267-63-3141 (佐久合同庁舎)

令和3年を迎えて



(令和3年2月 千曲川堤防より)

「コロナの終息を願い、皆様のご健康とご多幸をお祈り致します！」



会員の皆様には、日頃から長寿社会開発センター及び佐久地区賛助会の活動につきまして、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、昨年発生した新型コロナウイルスによるパンデミックは未だに終息する気配がなく、私たちの生活や経済活動に大きな影響を与えています。こうした中、現在も命がけで感染者の治療にあたっておられる医療従事者を始め、保健所や関係分野で懸命なご努力を続けていらっしゃる皆様には、心から敬意と感謝を表します。

この度のコロナ禍は、当賛助会の活動にも大きな影響を与えています。特に活動基盤であった佐久合同庁舎の利用自粛に伴い、各グループの活動場所を公民館等へ移さざるを得なくなりましたことは、皆様に大変ご負担をおかけしております。コロナが早期に収束し佐久合同庁舎でのグループ活動ができることを切に願っております。

11月に発生したコロナの第3波は、年末年始にかけて佐久地域においてもクラスターが発生するなどしたため、1月には県の感染警戒レベルが5になる地域も発生しました。更に年末年始以降の急速な感染の拡大により、医療提供体制に大きな負荷がかかり、入院調整も困難になっていたことから、全県に対して1月8日に「医療警戒」を、1月14日に「医療非常事態宣言」が発出されました(2/3に解除)。

今後は、年度末・年度始め(3/20~4/9)を迎えるにあたり、同様な状態にならないよう各自感染対策の徹底を図りましょう。

今月になって、待望のワクチンの接種が始まりました。今後、順次高齢者等に接種されるかと思いますが、接種できない方や接種を希望しない方もおります。接種を強制したり、接種を受けていない人に差別的な扱いをすることのないようお願いいたします。

これまでは、コロナの感染予防対策を図りながら賛助会活動を行ってきましたが、今後は、感染力が強いとされる変異株の動向にも注視しながら柔軟かつ迅速な事務運営を行っていきたく思いますので、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

～歴史を振り返ってみましても過去に起こったいくつかの感染症のパンデミックは必ず終息するときに訪れてきました。明けない夜はないと信じて前向きに取り組んでいきましょう。～

佐久地区賛助会 会長 萩原幸男



所属グループ別『手作りマスク作品コンテスト』応募者

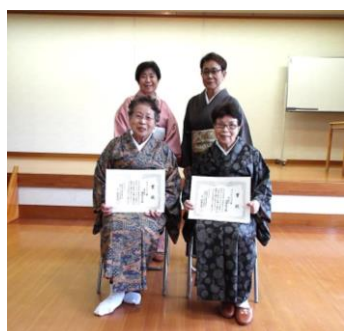
令和2年8月3日～9月4日の期間にチャレンジ頂いた『手作りマスク作品コンテスト』応募された皆さんが、所属グループの例会の日に、萩原会長から入賞の紹介をされ賞状が渡されました。



(10月20日 佐～久るポッチャ)



(10月7日 写経の会)



(10月10日 着付教室)



(10月20日 ハンドくらぶ)



(10月12日 ハンドメイド友の会)



(10月14日 活動推進員会)



(10月28日 銭太鼓を楽しむ会)



(11月18日 実践塾クラブ23)



令和2年度 佐久地区賛助会員活動発表会 開催

◆ 日時 令和2年11月26日(木) 午前11時～午後3時30分

◆ 目的

長野県長寿社会開発センターは、「明るく豊かな長寿社会の実現」に向けて、仲間づくりと長年培った知識、技術、経験を活かした社会活動を積極的に行っています。佐久地区賛助会では240名の会員が14グループに所属し、それぞれの活動を通じて会員相互の交流を図るとともに、様々な社会参加を行っています。グループの枠を超えて会員相互の交流を図るとともに、互いの活動を共有し、更なる賛助会の発展を期して、賛助会員の活動結果の発表会を開催します。

◆ 開催コンセプト

新型コロナウイルス感染予防を図りながら、「感染の早期収束を願う発表会」とし、以下の対応をして実施しました。

- ・新型コロナウイルスの予防対策の広報(手作りマスクの展示等)
- ・保健所/医療機関等の感染対策関連に従事する方への感謝と早期収束の願い(アマビエ塗り絵とコメントの展示)
- ・新型コロナウイルスの感染者及び医療機関等従事者への誹謗中傷防止の周知(広報)



『アマビエ』(京都大学附属図書館所蔵)

★アマビエとは?

江戸時代、肥後国(熊本県)に現れ「疫病が流行ったら、自身を写した絵を人々に見せるよう」に告げたという妖怪。これが現代の疫病、新型コロナウイルスを鎮めてくれるのではないかと、SNS上で盛り上がり、アマビエをかたどった有田焼や和菓子も発売されるなど、瞬く間にコロナ時代を象徴する存在になりました。

◆ 開会式(午後1時～午後2時)

□ 主催者を代表し、萩原幸男賛助会長から挨拶がありました。

□ 「令和2年度長野県長寿社会開発センター理事長表彰」

受賞の「舞幸会」グループ長 土屋真砂子さんは、平成26年に同グループを立上げて以来、6年間に渡り地元の高齢者施設等を訪問し、入所の皆さんに楽しみと喜びの場を提供する活動を継続してこられ、この度その功績が認められ表彰となりました。

賞状が、峯村敏彰佐久支部長から授与されました。



□ 手作りマスク作品コンテスト優秀作品入賞者の賞状授与

<賛助会員> 7名

高橋とき子さん(実践塾クラブ23) 井出悦子さん(写経の会)
尾台孝子さん(写経の会) 渡辺鈴子さん(ハンドメイド友の会)
安川秀子さん(ハンドくらぶ) 武井善子さん(銭太鼓を楽しむ会)
萩原幸男さん(墨友会)

<賛助会員家族> 1名 久原 有紀 様

<シニア大学生> 2名 阿部 香織 様(1学年) 小林 恵理子 様(2学年)



□ ご来賓祝辞 佐久保健福祉事務所 山岸秋夫副所長 様

- ・センター表彰を授賞されました土屋さま、「手作りマスクコンテスト」優秀作品入賞者の皆さま、おめでとうございます。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大が県内でも続いておりますが、このようなコロナ禍の中、賛助会員の皆様におかれましては大幅な活動の自粛や制約を受け、ご苦労されていることと存じます。
- ・人生100年時代と言われる現在、社会の担い手として地域で活躍するシニア世代の皆様への期待は、ますます大きくなっております。
- ・これからも、新型コロナウイルスの感染対策を十分に行っていただいた上で、「仲間づくり」や「社会参加活動」の輪を更に広げ、豊かで活力のある健康長寿社会づくりのため、一層のお力添えをお願い申し上げます。（一部抜粋）



□ ご来賓祝辞 長野県長寿社会開発センター 内山理事長 様（代読）

- ・佐久地区賛助会員活動発表会の開催に対し、心からお祝い申し上げます。
- ・本来ならば会場に伺ってお祝い申し上げるべきところですが、長野地区における新型コロナウイルスへの感染者数が増加している現状から、参加を見合わせていただきました。
- ・このような佐久地区賛助会の意欲的な取り組みが、他の地区賛助会にも波及し、県内10地区の賛助会が、それぞれの特徴を活かしながら交流・活動を深めていけることを期待しております。（一部抜粋）

◆ ステージ発表

コロナ禍のなか、工夫を重ねて練習を積んできた、日本舞踊、着付教室、詩吟、銭太鼓が披露され、会場から大きな拍手が沸き起こりました。



（着付教室）



（日本舞踊）



（幸吟会）

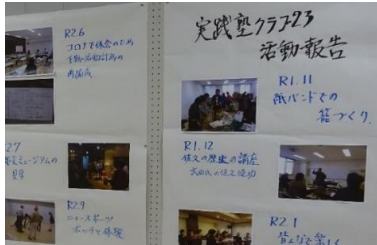


（銭太鼓を楽しむ会）

◆ 展示発表

14のグループ／委員会が、作品や日頃の活動内容を記した展示パネルを使って発表しました。展示グループは次の通りです。

- ・活動推進委員会 ・墨友会 ・写経の会 ・実践塾クラブ23 ・絆塾
- ・ハンドメイド友の会 ・ハンドくらぶ ・銭太鼓を楽しむ会
- ・歴史街道を歩こう会 ・佐～久るポッチャ ・着付教室
- ・「手作りマスク作品コンテスト」入賞作品
- ・「一日限りの賛助会男性手芸クラブ」 ・広報委員会（写真等）



(実践塾クラブ23)



(墨友会)



(絆塾)



(ハンドメイド友の会)



(ハンドくらぶ)



(歴史街道を歩こう会)



(銭太鼓を楽しむ会)



(着付教室)



(写経の会)



(佐～久るポッチャ)



(活動推進委員会)



(賛助会活動状況 広報委員会 写真)



(新型コロナウイルス感染予防について)



◆ 閉 式

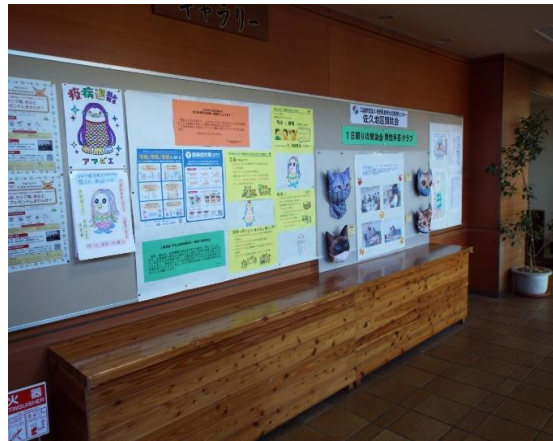
ステージ発表を終了し、「銭太鼓を楽しむ会」の「サザエさん」の演奏にあわせて、会場内の全員が立ち上がり、サザエさん体操を行い終了となりました。



**『手作りマスク作品コンテスト』 入選作品
佐久合同庁舎 1階ロビーに展示**

令和2年8月3日から9月4日の期間で行われた『手作りマスク作品コンテスト』で入選された皆さんの作品が、12月3日から12月17日まで、佐久合同庁舎1階ロビーに展示されました。

保健所・医療機関・行政等のコロナ感染対策関連に尽力されている方々への感謝と、早期収束の願いを込めた展示となりました。

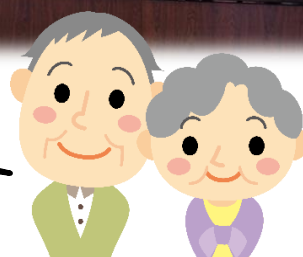


グループ活動紹介 『活動推進員会』

佐久地区賛助会のグループには、「活動推進員会」というグループがあります。ご存じでない方もおいでと思いますので、ここで会員の皆様に紹介をします。発足は平成2年、現在のグループ員数は9名（男性3名、女性6名）、グループ長は増本道子さんです。何かをテーマとしている活動グループではなく、会員の皆さんに定期的に発行している情報誌「信州りらく」及び「会報あさま」を封筒に封入する作業や、総会・活動発表会の受付業務などを担当しています。佐久地区賛助会の活動を、陰から支援して頂いているグループです。



いつもありがとうございます



賛助会 今後の予定（佐久地区賛助会総会）

- ◇ 令和3年5月24日(月) 14時～
「令和3年度 佐久地区賛助会総会」 於：中込会館
- ・新型コロナウイルスの感染状況等により変更となる場合がありますので、事前に事務局へご確認願います。
- ・感染予防を図るため、個人会員の方で総会にご出席の場合は、5月10日(月)迄に事務局へお申込み下さい。（事前予約）
(公財)長野県長寿社会開発センター佐久支部 事務局 担当：太田
佐久市跡部65-1 佐久保健福祉事務所内 TEL：0267-63-3141

『笑顔と思いやりと安心を届けるリボンプロジェクト』の紹介 (佐久支部との共催)

当たり前と思っていた普段の暮らしを、揺さぶっている新型コロナウイルス感染症。たとえウイルスに感染しても、あるいは感染者を治療する医療従事者であったとしても、誰でも地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会に！そんな願いから「シトラスリボンプロジェクト」が生まれました。愛媛県の小さなグループから始まった活動が全国に広がり、長野県も賛同してリボンづくりを進めています。

多くの方々にリボンの意味を知っていただき、身につけて「ただいま」「おかえり」の気持ちを表してコロナ禍で生まれた差別や偏見による弊害を防ぎ、心の通い合う笑顔と思いやり溢れた安心な地域になって欲しい事が、このプロジェクトの目標です。

私たち佐久地区賛助会もこの活動に賛同し、今回「赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」に申請し、審査の結果、助成金を頂けることが決まりました。

この助成金を利用しリボンキットを作りました。作成にあたっては、簡単な作り方と佐久をイメージできる素材を用いる観点で、地元高校の美術・デザイン担当の先生方や金属加工の地元企業さんから、リボンの素材やデザインについて助言を頂きました。

活動方法として、リボンプロジェクトの趣旨に賛同いただいた方にリボンを作っていたきました。完成したリボンを次のように展開します。

- (1) まずは身につけていただき「ただいま」「おかえり」の気持ちを表して頂く。
- (2) 大切な方に差し上げて、「あなたも作ってみませんか」の一言を！
- (3) 佐久支部に送ってください。まとめて医療従事者にお渡しします。
- (4) 作成時の写真、出来上がったリボンの写真、作っている時の感じた思いを佐久支部にお送りください。Web上で公開します。

我々が行った小さな活動が波紋となって地域に広がって心身ともに安心した暮らしが続けられる地域になればと思っています。



大勢の皆さんに尽力していただきましたが、リボンプロジェクトを代表して「ハンドメイド友の会」の臼田さんにお聞きしました。

- ・野沢保育園に出向き、先生方に活動をご説明し、「園児たちにも説明し出来るようになりました」とのメールを頂きました。また、野沢中学では保健委員の生徒たちが真剣に受け止めて活動に協力してくれました。
- ・野沢南高校には、サブリーダーの小林さんと二人で出向き、活動をご説明しました。
- ・泉野小学校には、手づくなの会の皆さんが出向き、活動のご説明をしました。
- ・忙しい中を皆さん都合をつけて頑張ってください、本当に有難うございました。

(編集後記)

早春の陽光に浅間山の残雪が日を追って少なくなってきました。早朝には鳥のさえずりも聞こえ、もう直ぐ梅が咲く季節です。新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が始まり、コロナ禍にも遠く希望の光が見えてきました。でも、油断は禁物！今こそ気を引き締めて、皆で「力」を合わせて活動を盛り上げていきましょう！！

次回の発行は、令和3年7月を予定しています。(広報委員会 北村・萩原)